

品質管理の専門領域と習得に活用できる資料・セミナー

品質管理の専門領域		習得に活用できる資料			習得に活用できるセミナーほか	
		市販の書籍	JSQC 選書	JSQC 規格・JSQC 報告書ほか		
基本	用語と概念	・クオリティマネジメント用語辞典	・品質管理用語 85 ・品質管理用語 Part2	・JSQC-Std 00-001 品質管理用語 ・JIS Z 8101 統計用語と記号 ・JIS Z 8115 デイペンタビリティ (信頼性) 用語		
	行動原則	・QC 的ものの見方、考え方	・我が国文化と品質	・ISO 9000 品質マネジメントシステム基本及び用語		
組織の運営	総合的品質経営 (TQM)	・品質管理入門 ・品質管理実務テキスト ・品質による経営 ・TQM-21 世紀における質経営 ・限りないサプライズ経営への挑戦 ・会社の品質	・Q-Japan-よみがえれ、品質立国日本	・グローバル化時代における TQM ・JIS Q 9005 持続可能な成長の指針 ・JIS Q 9006 自己評価の指針 ・ISO 9004 品質マネジメントアプローチ	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">品質管理セミナー</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 部長コース 監督者コース </div> </div>	
	方針管理	・TQC 推進のための方針管理* ・TQM 時代の戦略的方針管理 ・機能別管理の実際 ・方針管理活用の実際*		・方針管理運営の手引 ・経営機能別革新 ・ビジョン経営を目指して ・ビジョン経営がトライル ・JIS Q 9023 方針によるマネジメントの指針		
	標準化・日常管理	・社内標準化とその進め方 ・管理項目の実際* ・QC 工程表と作業標準書 ・品質経営システム構築の実践集	・日常管理の基本と実践	・JSQC-Std 32-001 日常管理の指針		
	小集団改善活動	・QC サークルの基本 ・QC サークル活動運営の基本 ・QC 的問題解決法 ・課題達成型 QC ストーリー ・QC サークル実践マニュアル ・QC サークル推進者マニュアル ・QC サークルリーダーのためのレベル把握がトブック ・開発・営業・スタッフの小集団プロセス改善活動	・問題解決法	・次世代型小集団活動実践研究会報告書 ・JSQC-Std 33-001 小集団改善活動の指針 ・JIS Q 9024 継続的改善の手順及び技法の指針		
	品質管理教育	・人を育てたい ・SQC 教育改革 ・TQM の考え方とその推進	・質を第一とする人材育成 ・会社を育て人を育てる品質経営	・工学教育と品質経営 ・ナレッジマネジメントと QFD の関連に関する研究 ・知識創造実践研究会報告書		
顧客価値創造とプロセス保証	潜在ニーズ把握	・ヒットを生む商品企画七つ道具 ・品質展開法 ・QFD がトブックー品質機能展開の原理とその応用 ・現状打破・創造への道 ・実践的 QFD の活用	・QFD-企画段階から質保証を実現する方法 ・ブランドマネジメント ・サービス品質の構造を探る ・アクティブ・クォリティー感情経験を提供する	・JIS Q 9025 品質機能展開の指針 ・価格対応品質実践研究会報告書	・品質機能展開セミナー (基礎編・実践編) ・品質機能展開セミナー ・品質機能展開ソポジウム	
	ネットワーク技術の特定と解決	・設計・開発における品質マネジメント ・製品開発論 ・設計・開発における Q の確保 ・品質ばらつき抑制手法 QVC			・設計開発における品質ばらつき抑制手法セミナー	
	トラブル予測と未然防止	・デザインレビュー ・デザインレビュー事例集 ・デザインレビューの実際 ・実践デザインレビュー手法 ・トヨタ式未然防止手法 GD3 ・未然防止手法 Quick DR ・新製品・技術の開発と信頼性工学	・信頼性・安全性の確保と未然防止 ・トラブル未然防止のための知識の構造化 ・FMEA 辞書 ・リスクマネジメント ・人に起因するトラブル・事故の未然防止と RCA ・医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ	・人間行動に起因する事故・品質トラブルの未然防止のための方法論の体系化	・信頼性技法実践講座デザインレビュー ・品質トラブルの未然防止セミナー ・信頼性・保全性ソポジウム ・設計・開発における未然防止手法セミナー ・設計開発における不具合未然防止のための知識活用セミナー ・未然防止に役立つデザインレビュー/DRBF 入門コース	
	工程能力の調査と改善	・工程能力の理論とその応用*	・工程能力指数			
	検査と保証度	・ソフトウェアテスト技法ドリル ・ソフトウェア HAYST 法入門 ・ソフトウェア品質保証入門			・ソフトウェアテスト技法ドリルセミナー ・ソフトウェア品質ソポジウム ・ソフトウェア品質保証のためのマトリクス活用セミナー	
	品質情報の活用・解析		・情報品質データの有効活用が企業価値を高める		・顧客満足・クレーム情報と品質情報のデータ分析コース	
	品質保証体系	・品質保証と製品安全 ・品質保証活動の進め方 ・ISO9000 経営に有効な第三者審査がトブック		・QMS 有効活用及び審査研究部会報告書 ・ISO 9001 品質マネジメントシステム要求事項	・ISO9001 要求事項解釈コース ・内部品質監査員養成コース	
	環境・安全等を含めた総合マネジメント		・安全文化 ・低炭素社会構築における産業界・企業の役割	・環境マネジメントシステム研究会報告書 ・ISO 14001 環境マネジメントシステム要求事項		
	手法・数理	QC 七つ道具	・QC 七つ道具			<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">標準化と品質管理セミナー</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">入門コース</div> </div>
		新 QC 七つ道具	・管理・スタッフの新 QC 七つ道具 ・新 QC 七つ道具の基本と活用			
管理図		・管理図の作り方と活用 ・管理図法* ・統計的工程管理				
抜取検査・サンプリング		・サンプリングと抜取検査 ・抜取検査* ・サンプリング法入門 ・サンプルサイズ決め方				
SQC 手法		・入門 統計解析法 ・統計的検定・推定 ・統計的品質管理	・シミュレーションと SQC	・シミュレーションと SQC 研究会報告書 ・デジタルエンジニアリングと品質保証研究会報告書		
実験計画法		・入門 実験計画法 ・実験計画法(上)(下) ・実験計画法(方法編)応用編				
タグチメソッド		・入門タグチメソッド ・品質を獲得する技術 ・設計科学におけるタグチメソッド				
多変量解析		・多変量解析法 ・CART による応用 2 進木解析法 ・グラフカルモテリング ・グラフカルモテリングの実際				
信頼性手法		・信頼性工学入門 ・入門信頼性 ・FMEA、FTA の活用 ・信頼性ハトブック				
OR 手法		・初等 OR テキスト ・おはなし OR*				
					・新 QC 七つ道具活用コース	
					・実験計画法セミナー入門コース、実践コース	
				・品質工学セミナー入門コース ・パラメタ設計・実践コース ・開発・設計部門のためのコース ・品質工学研究会 ・多変量解析セミナー入門コース、実践コース		
				・信頼性管理・信頼性設計入門コース ・信頼性技術入門コース ・信頼性技法実践講座 FMEA・FTA、故障解析、信頼性試験		

注) JIS 品質管理責任者コースは監督者コースと入門コースを合わせた内容

職位と求められる品質管理の専門能力

品質管理の専門能力		職位						
		経営者・役員	管理者	品質管理推進者	品質管理専門職	設計者・生産技術者	監督者	一般従業員
基本	用語と概念	○	○	◎	◎	○	○	○
	行動原則	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	総合的品質経営 (TQM)	◎	◎	◎	◎	○	○	
組織の運営	方針管理	◎	◎	◎	○	○	○	
	標準化・日常管理	○	◎	◎	◎	○	◎	○
	小集団改善活動	○	◎	◎	○	○	◎	◎
	品質管理教育	○	○	◎	○	○	○	
顧客価値創造とプロセス保証	潜在ニーズ把握			○	○	◎		
	ネック技術の特定と解決			○	◎	◎		
	トラブル予測と未然防止		○	○	○	◎		
	工程能力の調査と改善			○	◎	◎	○	
	検査と保証度			○	◎	○	○	
	市場品質情報の活用・解析		○	○	◎	○		
	品質保証体系	○	◎	◎	◎	○	○	○
	環境・安全等を含めた総合マネジメント	○	◎	◎	○	○	○	
手法・数理	QC 七つ道具	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	新 QC 七つ道具	○	○	◎	◎	◎	◎	◎
	管理図		○	◎	◎	○	◎	○
	抜取検査・サンプリング			◎	◎	○	○	
	SQC 手法			◎	◎	◎	○	
	実験計画法			○	◎	◎	○	
	タグチメソッド			○	◎	◎		
	多変量解析			○	◎	◎		
	信頼性手法			○	◎	◎		
	OR 手法			○	○	○		

注1) 「職位」の意味は、下記の通り。これらはいくまでも一般的な区分であり、個々の組織ごとに適切に修整して使用するのがよい。

一般従業員：生産職場やサービス提供職場で作業に従事する人、事務系職場や営業系職場で業務に従事する人等。

監督者：一般従業員を指揮し、指導する人。

設計者・生産技術者：製品設計やプロセス設計、そのための技術開発に携わる技術者。生産管理や安全管理などの管理・間接職場の技術者を含む。

品質管理専門職：品質問題・課題の解決・達成やその指導・支援など、品質管理・品質保証に関する業務を専門に担当する人。

品質管理推進者：組織における品質管理・品質保証の推進（計画・展開・見直し）を担当する人。

管理者：組織において上下・左右の連携の要となり、組織能力の向上をはかる人。

経営者・役員：組織が行う事業に関する計画を立て、組織をあるべき方向・ありたい方向に導く人。

注2) マトリックス中の記号の意味は下記の通り。多くの専門家の意見を集約したものであり、幅を持っているものとして捉えるのがよい。

◎：利活用できる必要がある（指導を含む）。

○：知識として持つておく必要がある。

空欄：ある方が望ましいが必須ではない。